



Rotary International District 2800 山形西ロータリークラブ会報

会長：東海林 健登 幹事：武田 岳彦

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

地区目標 中核的価値観のもと、時流対応の時
～奉仕の心の醸成と実践するロータリアン～

クラブテーマ ロータリーの価値を改めて考え、そして楽しむ

◆点鐘：東海林健登 会長

◆ロータリーソング：四つのテスト

◆司会：浦山潔 S.A.A.

◆会場：山形グランドホテル



Yamagata West Rotary

第2928回例会

令和3年11月29日(月)

会長あいさつ

東海林 健登 会長



今年も残すところ1カ月となりました。今年は9月末まで、コロナ禍のため県をまたいでの移動はできない1年でありました。

10月9日、友人のお墓参りも兼ね、10年前の3月11日、東日本大震災で未曾有の津波被害を受けた岩手県陸前高田市に行きまいりました。震災発生前に訪れた時は東北自動車道を北上し、一関市から東の山々を越えて三陸海岸まで出て、とても遠い所であるという印象を受けました。夜の町は決して華美ではないけれど、おいしい魚介類が食べられるお店が多かったと記憶しております。また、7万本の高田松原を散策し、海で海水浴、海釣りなどをし、とても充実した休日を過ごした思い出があります。

そして10年前、震災発生半年後にお伺いした時は、津波に襲われ、以前の市街地の跡は跡形もなく、高田松原の松も「奇跡の一本松」を残しなくなっており、まるで爆弾を投下されたような状況で、すごいショックを受けました。

今回は、東北自動車道、三陸自動車道にて約3時間で到着しました。当日の夜は、たまたま全国の若手花火師たちが腕を競う「三陸花火競技大会2021」が、市中心部に整備された高田松原運動公園を主会場に開催されるということで県内外からたくさんの人々が訪れており、大変にぎわっておりました。震災前の市街地には住宅はほとんどなく、山を切り崩し平坦にした高台に住宅団地がたくさん設けられており、友人の家も海岸のそばから住宅団地に移動しておりました。

また、「いわてTSUNAMIメモリアル」東日本大震災津波伝承館を訪問してきました。伝承館は津波の事実と教訓を国内外に発信し、後世へ伝承することを目的として整備された建築物であります。津波で破壊された橋桁や消防車、被害に遭われた方々の生々しいインタビュー記事などが展示され、そしてまた被災当日のフィルムも上映されておりまして、津波の怖さを改めて学ぶことができました。そして津波で破壊された約7万本の松原の跡地には、松が植樹され始めておりました。

10年前に津波で何もかもなくなった町が、以前の陸前高田市とは全く違った町がつくられておりました。

人々は災害を乗り越えて新しい生活を送っており、元の生活を取り戻そうとする強い気持ちとたくましさを感じることができた1日でありました。

幹事報告

武田 岳彦 幹事

- 12月6日は年次総会の予定となっております。総会は会員の3分の1の出席をもって成立となっております。総会についてはハイブリッド例会は行いません。出席カウントは会場に足を運んでいただいた方となりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。
- 西クラブの備品の映像プロジェクターの所在が不明になっております。どこにいったのかなという状態になっております。ほかの会議等で使用した、ちょっと借りている、という方がいたら事務局までご連絡をいただければと思います。
- 西ロータリークラブに、第34代米山功労クラブということで、米山から感謝状を頂戴しております。
- 米山から個人の方に、感謝状が届いております。遠藤栄次郎さん。伊藤義彦さん。吉田福平さん。尾形亨さん。鈴木浩司さん。清野伸昭さん。以上6名の皆様、おめでとうございます。
- ポール・ハリス・フェロー財団から表彰いただいております。鈴木浩司さん。米本満さん。鈴木隆一さん。尾形亨さん。酒巻雅樹さん。以上5名の皆様、おめでとうございます。



写真左より、尾形亨さん、清野伸昭さん、吉田福平さん、遠藤栄次郎さん、東海林会長。



写真左より、酒巻雅樹さん、鈴木隆一さん、尾形亨さん、米本満さん、東海林会長。



やまがたのフードバンクの現状

伊藤 智英 氏

一般社団法人 やまがた福わたし

皆さまこんにちは。今日はフードバンクの現状についてお話をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず最初に、フードバンクとは、ご家庭で余っている食品や企業さんでの箱つぶれ、などで流通できない食品などをご寄贈いただき、それらを食の支援を必要とする個人世帯、こども食堂、学童施設、学習支援団体、福祉団体、福祉施設などに無償でお渡しする活動になっております。

やまがた福わたしは2016年10月から活動を開始しまして、現在6年目になっています。メンバーは13名で、仕事をリタイアされた方が主なメンバーのため、70歳前後のメンバーが今メインで活動をしていただいております。

私がこのフードバンク活動をするきっかけは、ベトナムに旅行に行った際、幼い物乞いの姉妹と出会ったことでした。夜市に買い物に行った際、2～3歳ぐらいと4～5歳ぐらいの幼い姉妹が手をつないで、私たちに「お金をちょうだい」と物乞いに来たんですけども、ガイドさんから「子どもには絶対お金を渡さないでください」と言われていたので断ってんですけどもなかなか帰ってくれなくて、あまり帰ってくれないので少しぐらいならという気持ちになって小銭を探そうとしたところ、一緒にいた友達から「ダメだよ」と注意されて、その様子を見ていた子どもは、この人たちはくれないんだなということ諦めて、また暗い路地に帰っていきました。

その後ろ姿を見て、生まれたところが違っただけでこんな生活をしなきゃいけない子どもたちが目の前にいるのに自分は何もできないという無力感と、確かに自分が小銭を渡そうとした行為は単なる自己満足であって決して子どものためにはなっていない、ということを思いました。その子どものための思うのであれば、自分が住んでいる山形で地域と子どものためになるようなことをしなければいけないんだなと思って帰ってきました。

それから数年経った後、子どもの貧困率というのがニュースで取り上げられるようになりました。普段生活している中で、食に困っていたり生活に困っているような子どもを見かけることはまったくございませんし、大人の方でも路上で生活してるんじゃないかなと思われる方をお見かけすることはほとんどないので、子どもの貧困率というのは山形県はゼロパーセントに近いのではないかと思ったんですけども、ニュースを見たところ16.6%と、もう自分の予想をはるかに上回る率というのを知って驚愕しました。そこで、農産物が豊かで人もあたたかい山形でフードバンクの活動をすれば少なからず助かる方がいるのではないかと思い、このフードバンク活動を立ち上げました。

フードバンク活動は、食というのは毎日のことなので、どちらかと言うと縁の下の力持ち的のところなので、ご存じない方が多くないような状況なんですけれども、今日はそのフードバンク活動について知っていただければと思います。

今、日本でフードバンク活動をしているのは130団体あ



ると言われています。このフードバンク活動に今求められているのは、食品ロス削減だったり、貧困をなくそうというSDGsにも掲げられている項目ですが、まず1つ目の役割としては、食品ロス削減という役割が大きく求められています。そのためにどのようにしているかということ、フードドライブという活動で食品の寄贈を集めております。

フードドライブ、ドライブというのは「～を集める運動」という意味で、食品を集める運動で「フードドライブ」という言葉が使われています。

どのようにしているかということ、マックスバリュさんと2017年から合意書を交わして、最初、山形市内3店舗にフードドライブボックスを設置し、回収をする。現在は寒河江市と天童市も加わり、全部で8店舗にフードドライブボックス、福わけボックスを設置しております。お買物のついでにご自宅で、ご家庭で余っている食品をビニール袋や紙袋に入れて、そのままこのボックスに入れていただいております。

このボックスは、山形市内は週に1回、天童・寒河江市は2週間に1回、回収をしております、今年の9月には1カ月で400キロを超えるお品物が寄贈されております。

このほかにも県社会福祉協議会さんや天童市社会福祉協議会さんでも受付をいただいておりますし、また企業さんなどの職場単位、J A山形さんの女性部さんのように団体さんでの単位、また山形東高校さんや東根の東桜学館さんなど、スクールフードドライブとして学校でフードドライブをいただいております。

食品を捨てるのではなく必要な方にお渡しすることでCO2の削減、ひいては、ごみの処分には年間2兆円という税金が投入されているんですけども、そういった税金の削減だったり、いろいろなメリットがあるので、フードバンクとしてはその食品ロス削減のためのフードドライブ活動というのが大きな役割として求められているなと思っております。

集まった食品はどのように活用されているのかということですが、私たちの支援活動は主に自立支援というのを行なっております、各市町村に設置されている自立支援の窓口にご相談された中で、食の支援が必要なご家庭に食料支援を行っております。この食料支援は、基本、3カ月間という期限を決めて行なっております。なぜ3カ月間という期限を決めるかというと、ずっと期限がないと依存が強まってしまいます。「もらえるからもう働かなくてもいいや」となってしまうと、自立の心を阻害してしまうので、3カ月間で社会福祉協議会さんやハローワークさんやいろいろな支援を受けてなんとか自立した生活をできるようにということで食料支援を行なっております。

最長では2年間という期間支援した世帯があります。2年間ずっと毎月支援していたかというそうではなく、最初の3カ月間行いましたが、そのご家庭は高校2年生の男の子とその上にお兄さんがいるんですけど、お兄さんは障がいを抱えていて、障がい者施設でわずかな賃金の収入しか得られない。お母さんはお兄さんの世話をしなきゃいけないのでフルタイムで働けない。なかなか世帯収入を上げることができないため、その高校生は学校にお弁当を持っていくことができなかつたそうです。友達がお飯を食べる時に自分だけご飯が食べられないというのは心も荒んでしまうのではないかと思います、私たちは最低でも毎日高校におにぎりだけでも持っていってもらえるように、通常の支援プラスお米5キロと、焼きのり、梅干しなどの具材になるものをプラス支援し、どうしても苦しいという時に何回か支援をし、最後、卒業する時は就職するためにスーツとか靴とか買わなくてはいけなくて、今月厳しいということで、最後、3月の卒業の月に食料支援をして、2年間の支援期間を終わりました。

その他にも、食にも生活にも困っているという20代後半の男性がいました。その方は20代という若いこともあってか、なかなか「助けてほしい」と相談に行くことができなかつたそうです。だんだん衰弱してきて、空腹でむじく、もうこのまま死ぬしかないのかなと思ってたそうなんですけれども、最後の最後、やっと勇気を振り絞って相談に行って、うちにつながりました。

社会福祉協議会さんでもすぐに仕事を紹介して、新しく寮に住めるようになったんですけども、私たちとしては、次に進むためには、どうしても仕事を続けてほしい、自立のためにクビにならないようにしてほしいということで、まず体力を回復することが1番と思い、コロッケだったり生卵だったり差し入れして、カレーとかも作ったりして、10日間で元の体型、体力も戻して仕事に行けるようにしました。そのかいもあってその方は1カ月仕事を続けることができました。

2回目の支援品を持って、その寮に行つたんですけども、その時にその方から言われたことが今も心に残っています。自分はこういうフードバンク活動も知らなかつたし、やまがた福わたしという活動をしている団体があるということも知らなかつたけど、あって本当に良かった。ありがとうございました。と、深々とお礼を言われました。暗い中、自分はこのまま死ぬしかないんだなと諦めていた部分もあつたけど、死ななくて本当に良かった、と言ってもらつた時に、皆さんからお裾分けでいただいた食品をお預かりして必要な方にお渡しするというだけで人の命も救えるんだなってその時改めて思いました。

その方は結局きちんとそのあとも仕事を続けられ、3カ月間の支援期間で借りていたお

金もすべて支払いして、元の生活に戻れました。短期間で戻れたというのはやはり20代後半という若い年齢だから早くリスタートできたのではないかなと思っておりません。

そのほか、毎日元気よく挨拶していた小学生がある時から担任の先生に毎朝「先生、おなかすいた」と言うようになったそうです。先生は親御さんに連絡して、毎朝朝ごはんを食べさせて登校させてくださいねとお話をしたそうなんですけれども、なかなか「おなかすいた」というのをやめなくて、毎日言うんですね。先生もたまにおにぎりをそっと渡して下さつたそうなんですけれども、それでもその子だけに毎日おにぎりを渡すということもできなくて、そのうちその生徒さんの目の力がだんだん弱くなっていくのがすごい気がかりで、校長先生や教頭先生と相談したところ、自治体や社会福祉協議会とも話をし、私たちやまがた福わたしのほうの食料支援を受けるということで連絡がきました。

最初、親御さんもなかなか恥ずかしくて先生に言えなかつたそうなんですけれども、親御さんは食べずに子どもに毎日ご飯を食べさせるようにがんばつたんですけども、それでも1日1食しか食べさせることができない日があつたんですと、何度かお話ししているうちにやっと告白して下さつたそうです。

そのように小さい子どもさんがSOSを出せるというのはやっぱり身近にいる大人として担任の先生だったりするので、本来であればこういった学校との連携というのは必要だなと感じてらるんですけども、やまがた福わたしの知名度が低いこともあってなかなか学校との連携は進んでいないのが現状です。ですが、そのお子さんのご家庭には3カ月間食料支援をして、毎日朝ごはんを食べ登校できるようになって、その後元気よくまた挨拶もできる子どもさんになったというふうな報告を聞いております。

今「歳末お福わけプロジェクト」ということで100世帯募集して、締め切つて100世帯決定したんですけども、その応募内容を見ると、やはりコロナ禍で1日1食しか食べられないというご家庭もありますし、大幅に収入が減つたというような声も多く書かれておりました。このようにお金の支援だけではなく、食の支援ということで自立に向けたというフードバンクの活動というのはこれからもまた求められていくのではないかなというふうに感じております。

このフードバンクなんですけれども、大きな課題が2つあります。1つは運営資金の確保です。無償でいただいて無償でお渡しする活動のため、ほとんどが助成金だったり寄付金によって活動資金は賅われています。もちろん人件費は出ていません。私自身も自分の生活費は自分で仕事をして確保しております。そのため、仕事に行く前、仕事に行つたあと、休みの日は全部フードバンク活動に時間を費やしております。もちろん食品を保管する倉庫の家賃、またお米はですね、20℃を超えると虫がわいてしまうため、5月から大体10月くらいまでは1部屋を20℃以下に保つためクーラーを24時間つけっぱなしにしているため、光熱費もかかります。集荷に行く際の手車もボランティアの皆さんの自家用車を利用させていただいております。助成金の中から今わずかながらガソリン代は補助させていただきますが、それも助成金がなければお渡しできなく、ボランティアさんの自己負担になっております。

長期的にいろいろなことをしたいんですけども、どうしても運営資金の確保が難しく、その都度その都度助成金の範囲内でやらざるを得ないような状況です。お福わけ



ニコニコBOX

〈11月29日〉

東海林健登会長／本日の例会にゲストとして伊藤智英さん。ビジターとして山形ロータリークラブのバスター長谷川憲治さん、会長の高橋修さん、幹事の阿部龍太さんがお越しいただきましたことにニコニコします。ありがとうございます。

市村清勝会長エレクト／1. 三氏を歓迎して 長谷川バスター、高橋会長、阿部幹事、ようこそいらっしゃいました。2. **グッドデザイン賞受賞** 柴田健一さんのあさひ会計セミナー棟がグッドデザイン賞を受賞いたしました。弊社の施工でしたのでニコニコです。

長谷川憲治バスター、高橋修さん、阿部龍太さん／勉強に参りました。よろしくお願いたします。

横沢善則さん／やまがた福わたし 伊藤智英さんをお迎えして本日のご講演に感謝して。ありがとうございます。

戸田正宏さん／ネットヨタ高橋社長、ようこそ！阿部菜々美をよろしく！

ロータリーの友12月号にまた小生の句が掲載されましたのでニコニコします。「赤とんぼ蔵王の釜に尻立てる」蔵王のお釜に赤トンボが沢山飛んでいました。

東海林健登会長、結城和生さん、尾形亨さん、鏡武利さん、戸田正宏さん／白鷹山勝ち越し やっと勝ち越しました。来場所もガンバレ。

佐藤啓さん／宜しくお願いたします

このたび東北DX大賞の特別賞を受賞しました。12月13日は65周年記念クリスマス家族会を担当します。楽しい会になる様に準備をしています。皆様の参加を宜しくお願致します。

武田秀和さん／初めての誕生日

娘が11月17日に初めて誕生日を迎えました。無事に一年を過ごしてくれたことにニコニコです。

鈴木隆一さん／ご芳志ありがとうございました

この度、母の葬儀に際しましてはクラブのみなさまより格別のご芳志ご厚情を賜わり、たいへん恐縮しております。誠にありがとうございました。



プロジェクトも100世帯に宅配便で送りますので、100世帯分の宅配便の運賃も、今回助成金が決まったからできたんですけれども、助成金がないとお届けできないというような実情があります。

2つ目は人材の確保です。先ほど申し上げましたとおり、メインでボランティアしていただいている方々は、70歳前後の方々です。その方々が13トンもの食品を集荷して、またお届けするために梱包もします。さらに賞味期限があるため、常に入れ替えという作業が必要です。お米は玄米30キロです。1回のフードドライブで500キロ、600キロをいただくんですけれども、こちらを集荷して、車に積んで、車から降ろして、倉庫に格納して、また出してという作業もあります。精米作業も私たち、自分たちでしています。体にとっても負担のかかる重労働で、若い世代の方は働いているので、ボランティアという方は少ないと思います。

東京のセカンドハーベスト・ジャパンという上野の炊き出しなどを行っている、日本で一番大きなフードバンク団体に私も何度かボランティアに参加させていただきました。そこにに外資系企業の方が企業ボランティアということで参加されていました。年に2回、午前中は仕事をして、午後からはボランティアに行ってそのまま直帰するというようなプログラムだそうです。山形県ではまだ実施されている企業様はお伺いしたことがないので、このような企業ボランティアというのを取り入れていただく企業様がありましたら、ぜひとも私どものほうにお力を貸していただけばと思っております。

今後も地域に根ざした活動を続けていきたいと思います。どうぞご協力のほどよろしくお願いたします。本日はありがとうございました。

みなさんのご家庭や職場に眠っている食品ありませんか？

フードバンクでは、寄付していただいた食品・生活用品を支援を必要とする個人・福祉団体等に無償でお渡ししています。

その食品で救えるいのちがあります。

お福わけ頂きたい食品・生活用品

- お米・お餅 小粟粉
- 乾燥 スパゲティ、スパゲティ
- インスタント レトルト、フリーズドライ
- 瓶詰・缶詰
- 調味料各種 食用油
- 乾物 ぶらお干、お茶漬け、海苔など
- 飲料 ジュース、コーヒーなど
- お菓子
- 粉ミルク 離乳食
- 生活用品 洗剤・ティッシュ、トイレットペーパー、雑巾など

【お福わけBOX設置店】 イオン東北株式会社 マックスバリュ様
山形駅西口店・青田店・東原店・南三番町店・天童店
寒河江中央店・寒河江西店・高松店

【お福わけ窓口】 平日9時～17時まで
山形県社会福祉協議会・天童市社会福祉協議会・東根市社会福祉協議会・尾花沢市社会福祉協議会

☆注意して頂きたいこと☆
○賞味期限が明記されているもの ○賞味期限が1か月以上あるもの ○未開封であるもの
○産地で中身が出ていないもの ○お米は常備の範囲内でなくないもの
○アルミ缶は受け付けておりません。
○一度結露やお弁当等に付属された調味料、ホイル食品食品は受け付けておりません。
○コーヒーやコーヒーマシンの、器具が必要な食品もご遠慮させていただきます。

判断が難しいものや 冷蔵・冷凍・野菜などは、お問い合わせは「やまがた福わたし」まで直接お問合せ下さい。

080-3322-0029
info@fukuwatashi.com
一般社団法人 やまがた福わたし (フードバンク山形中央)

	会員総数	出席会員数
本日出席 (11 / 29)	100名	60名 + ズーム参加8名
メイクアップされた会員	山形RC / 高橋修さん、阿部龍太さん、長谷川憲治さん	